

談話室

振付師

パパイヤ鈴木さん



profile

1966年生まれ。東京都出身。

幼少の頃より音楽に親しみ、高校時代にはバンドで米軍キャンプをまわる。'98「パパイヤ鈴木とおやじダンサーズ」を結成。現在は振付師・ダンスコーディネーターの他に作曲家、アレンジャー、ミュージックライター、プロデューサーとしても活躍中。

て歌ったり、そんな先生だったんです。

その先生が数学的な要素が多い人でした。僕に教えるときは、「 $1+1=2$ 」ではなくて、例えば、「りんごが1個ありました」という感じで教えてくれたんです。「割り算は掛け算だ」なんて言われて、あとから「ああ、なるほどね」ってわかるような。ちょっと教え方がうまいんですね。

だから、その先生のおかげで数学はちょっと興味がありました。「ハノイの塔」っていうゲームがあるんですよ。柱が何本かあって、リングを入れ替えていくゲームなんですけど、いろいろ法則があるんです。一番早く入れ替えるには何手でいけるか、先生と競争したりしました。先生はわざと間違えたりして、僕らに勝たせてくれたりするんですけどね。

—ダンスを始めたきっかけは？

父が音楽をやっていて、母が昔ダンサーだったんです。僕は歌をやりたいだけだったけど、歌には音程とリズム感があるから、まずリズム感を養ったほうがいいと言われて、それで始めたんです。

—「おやじダンサーズ」のアイデアは？

世間的にヒップポップがはやってきて、僕もやりたいと思ったんですけど、みんな同じようなスタイルだったんです。だから、もっとおもしろくて目立つグループをいろいろ考えて、「らしくない人」がやるっていうのが、一番インパクトがあるかなって思ったんです。

—学生時代はどんな生徒でしたか。

学生時代は、正直言ってあんまり勉強は好きじゃなかったですね。昔から変に現実的なところがあって、「これ本当に必要なの？」というものに関してはあまり興味がわかないというか…。でも、数学とか国語とか英語とかっていうのは、ある程度知っていなければいけないとは思っていました。

数学は、パズル的なところが好きでした。僕が小学校のときに習っていた先生が、とてもユニークだったんです。もとは高校の先生だったらいいんですけど。小学校だったから、全科目を一人で教えていたんですが、ギターが好きで音楽の授業をギターでやったり、遠足にもギターを持って来

—もし、自分が学校の先生だったら？

まず、授業の中身がどうこうというよりも、生徒とのふれあいを大切にしたいですね。

授業内容としては、例えば英語なんかだったら、映画に出てくるような、ちょっとイヤらしい英語なんか教えたりして(笑)。

その教科が好きになるかどうかって、先生にすごく左右されますよね。

—数学が役に立ったことはありますか？

うーん、ないです(笑)。でも、音楽とか振り付けとかで、数学的な考え方は意外としているかもしれないですね。ダンスの人は、ワン・エイトとって、小節を $1\cdot2\cdot3\cdot4\cdot5\cdot6\cdot7\cdot8$ 、 $2\cdot2\cdot3\cdot4\cdot5\cdot6\cdot7\cdot8$ って数えるんですが、音楽の人は $1\cdot2\cdot3\cdot4$ 、 $2\cdot2\cdot3\cdot4$ って数えるんですよ。僕は音楽も好きでやっているからわかりますけど、ミュージシャンと合わせるのって、結構大変なんですよ。小節とかワン・エイトっていう単位をずっと追っているんです、ダンサーの人って。

—将来の夢は？

ダンスが一番好きだから、ずっとダンスの仕事をしたいですね。それから、ダンスで海外も行ってみたいですね。何をやりに行くかまだわからないんですけど、日本を飛び出して行ってみたいと思います。